

## ～今月の読み物～

## 「材木屋の婚活に初参加」

エコ太郎

木材業界では後継者問題が大きな課題となっている。後継者となる息子や娘、従業員の晩婚や未婚を心配する経営者も少なくない。また、後継者がいないことから廃業を余儀なくされた企業もなかにはいる。

東京木材問屋協同組合の文化厚生委員会青年部では組合員の事業継承を促すため、独身の経営者や従業員の結婚を後押しする婚活事業を数年前から進めている。青年部によるとこれまでに「料理教室」や「ディズニーシービューフェ」「バーベキュー」「貸切パーティー」「婚活船上クルーズ」等の様々な内容で出会いの場を設けてきたという。

昨年11月17日には9回目となる大規模な婚活パーティーが催された。舞台となったのは日本中にディスコブームを巻き起こしたディスコの元祖「マハラジャ六本木」。当日は112人(男性42人、女性70人)が参加した。

参加者は開始前にニックネームと一言PRを書いたネームカードを作成。

当日1テーブル12人のグループトークから始まった。5分経過すると男性だけ次のテーブルへ移動し別の女性と会話をした。男性と女性のバランスが悪く、6対6のテーブルもあれば、男性が4人や3人のテーブルがちらほら。ただ、互いの職業、出身地、趣味、年齢など他愛無い話をして楽しい時間だった。



参加した年代層も男女20～50代と幅広かった。

集まった女性陣の職業を聞くと金融や医療、アパレル関係者など異業種が多く、職業にまつわるあるある話などで盛り上がる場面もあった。なかには実家が製材工場で婿探しにきた女性も。私が驚いたのは20歳の女子学生が参加していたこと。

最初は緊張している様子だったが、徐々に楽しそうな会話があちこちから聞こえ始め、会場内はすぐに和やかなムードに。その後、「フリートーク&ダンスタイム」を実施され、グループトークで仲良くなった人と会話する姿が見受けられた。また、DJが80年代ディスコ全盛期のヒット曲を中心に流し、フロア中心では参加者たちが和気あいあいと踊った。

筆者も文化厚生委員の小林功治委員長から扇子を託され、人生初めてバブル時代を象徴するお立ち台に乗って扇子を振り乱し踊った。

最後に自分のネームカードに気になった異性の名前と自分の携帯番号を書くカップリングが行われた。

参加した女性陣から「男性が少ない婚活だった」、「お酒を持ってきてくれる男性、緊張して話が続かない男性など個性的な人が多かった」などを評価。筆者から見て今回の結婚には積極的な女性が多かったように見えた。

今回3組がカップリングに成功したと聞いているが、スタッフが裏方として参加者をサポートした結果かもしれない。



お立ち台に乗って扇子を振り乱し踊る筆者



カップリング成功???